

指定演題 要旨

テーマ「情動報酬系へのアプローチ」

- 1) 上肢機能改善に向けたアプローチ
～治療場面における情動報酬系に対する一考察～
大浜第一病院 OT 吉嶺浩

今回、大動脈解離による緊急手術後、脳梗塞を発症した50歳代の男性を担当した。急性期から社会復帰を見据え上肢機能改善に向け介入。評価指標として、上肢の随意性とADLへの波及を期待し両手で背中を擦る動作を選択。治療場面では、症例の職業歴から「鋸引き」を選択し、その活動で起こる様々な知覚・運動的側面や情動的側面がどのように変化し身体機能へ波及できるかを検討。鋸引き活動を通して得られた多重感覚は、記憶系のネットワークに大きく関与した可能性があり、知覚・運動的側面と情動的側面の双方が循環する事で入浴動作の一部である背中擦りへ波及したと考える。治療場面における情動面の評価については表情や言動で行うことが多いが、姿勢や運動に現れることも多々あり、あらゆる視点から予測することが肝要であると言える。

- 2) 重複障害を呈した急性期脳卒中患者に対する食事動作獲得に向けた関わりについて
～木工活動を通じた介入～
一之瀬脳神経外科病院 OT 和氣良彦

症例は、高次脳機能障害の影響により、行為遂行や道具使用、コミュニケーション、日常場面での適切な状況判断において混乱を来していた。自己と外部環境との相互関係の構築に向け、状況に応じた行為が選択されることを期待し、木工活動を通して課題遂行や道具操作から得られる知覚情報への持続的な探索を促した。人の行動の根底には情動があり、情動は行動を一定の方向へ誘導する動機付けの役割を果たし、報酬は意思決定機構に影響を与え学習を強化する因子とされている。情動-報酬系は感覚情報の処理過程において喚起され、症例にとっては、意味のある活動場面の提示と共に、活動を介した療法士とのやりとり=感覚情報の提供に配慮が必要であった。そういった関わりを通じ、課題達成に向けての道具操作・行為の成立、試行錯誤を経た成功体験、目的や意図の共有体験等が図れ、環境との相互関係に気づききっかけとなり、日常場面における混乱の減少に繋がったと考える。

3) 前頭葉・頭頂葉症状に対する段階付けアプローチ
～手の機能と身体図式（ボディスキーマ）との相互関係について～
山梨リハビリテーション病院 PT 菊池めぐみ

前頭葉・頭頂葉の機能不全により手指屈筋群は過緊張となり手関節部の疼痛を引き起こしていたために能動的に対象物を触れられず、形状の知覚ができなくなっている症例を担当した。バスタオルや雑巾、バルーンなどを用いて手掌面からの知覚情報に基づく従属的な肘・肩・肩甲帯の反応と全身の選択的活動を促し、視覚と触覚が一致することで身体図式の歪みが修正された。次にペットボトルキャッチで適度な集中と成功体験の積み重ねにより座位の安定が得られたため、手指の機能改善につながることを期待しオセロを用いて介入した。これらの段階付けにより目標志向的に運動イメージを想起させ、達成感の得られる課題選択と成功体験を重ねることで報酬価値が得られ、左手の不使用を防止し、身体図式に影響を与え、前頭葉・頭頂葉の機能改善に寄与できたのではないかと考える。